

2007年新潟県中越沖地震後の余効変動 —GPS大学連合による緊急観測結果—

東北大学大学院理学研究科・九州大学大学院理学研究院・
北海道大学大学院理学研究院・東京大学地震研究所・
名古屋大学大学院環境学研究科・富山大学大学院理工学研究部

東北大，九大，北大，東大震研の各観測班は本震発生の翌日に現地入りし，震源域周辺にGPS観測点を14点新設した．7月24日には名大により震源域北側に3観測点が増設された．更に，富山大が2004年中越地震時に設置した観測点においても観測を継続し，併せて18点からなる観測網を構築した．

地震前後の変位データを用いて測地インヴァージョンを行い，地震時滑り分布を推定したところ，地震波形インヴァージョンによる滑り分布と概ね整合する結果が得られた．なお，断層面形状については議論のあるところであるが，ここでは北西傾斜の断層面を用いている．

本震発生後約10日間にわたって明瞭な余効変動が観測されており，そのデータを用いてインヴァージョンを行ったところ，主要な地震時滑り域の深部で余効滑りが推定された．

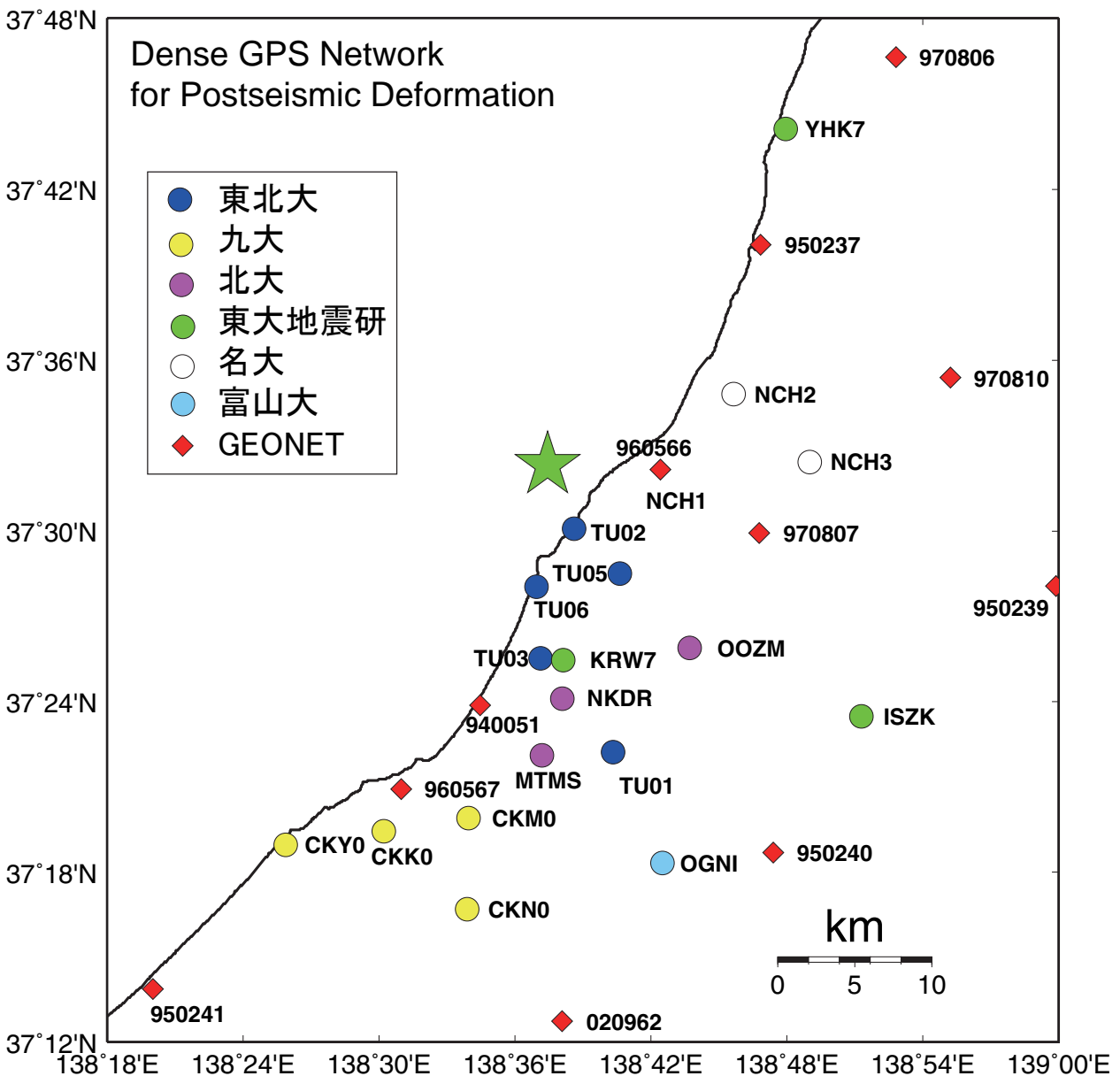


Fig. 1 観測点配置図．ひし形はGEONET観測点，丸印はGPS大学連合により設置された臨時観測点を示す．